

## 関係団体ヒアリング結果概要

### 【団体ヒアリングについて】

- スポーツに関する現状や課題、現場のニーズ等を把握するため、スポーツ関係団体へのヒアリングを実施。
- これまで、スポーツチームとの連携・協働の観点から、大同特殊鋼(株)フェニックス（8/30 実施）、総合型地域スポーツクラブの質的向上や運動部活動の地域移行の観点から、NPO法人ウィル大口スポーツクラブ（10/14 実施）に対して実施。
- 今後、障害者スポーツの観点、競技力向上の観点、スポーツツーリズムの推進の観点から、関係する団体とのヒアリングを実施する予定。

### 【団体概要】

<p>大同特殊鋼(株)フェニックス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大同特殊鋼(株)は、名古屋に本社を置く世界最大級の特殊鋼専門メーカー。同社のハンドボール部として1964年に創部され、名古屋を拠点に活動。日本ハンドボールリーグに所属。</li> <li>○ 1972年からの3年連続四冠制覇をはじめ、日本リーグで最多優勝など、国内屈指のタイトル獲得数を誇る。</li> <li>○ 大同特殊鋼(株)では、ハンドボール、剣道、バレーボールなど、8つの運動部が活動。</li> </ul>
<p>NPO法人ウィル大口スポーツクラブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2002年に設立された、大口町に拠点を置く総合型地域スポーツクラブ。</li> <li>○ 水泳、サッカー、バレーなどのスポーツ教室開催のほか、文化教室、各種イベントの開催、スポーツ施設の指定管理等を担う。</li> <li>○ 2021年度から、国の地域運動部活動推進事業を受託し、中学校の運動部活動の地域移行に向けた取組を試験的に実施。</li> </ul>

## 団体ヒアリング結果（大同特殊鋼株） 8月30日実施）

### 【チームに対する期待、チームが会社にもたらす効果】

- ・ 会社がチームを持つ理由としては地域貢献や、青少年育成などいくつかあるが、その一つとして、グループとしての一体感の醸成がある。選手は社員としてフルタイムで働きながらプレーし、これまで幾度と日本一を勝ち取ってきた。結果を残して、会社に明るい話題や活力を提供することがチームの役割であると考えている。
- ・ 会社からは、“引退後も社内で活躍していくため、まずはしっかりと仕事ができるように”との方針が示されており、「一流プレーヤーである前に、一企業人であれ」というスローガンが創部以来の伝統として引き継がれている。社員として終身雇用を前提にしており、フルタイムで仕事をしてもらうことにこだわりをもっている。

### 【チームとしての課題】

- ・ 最近プロ志向の学生が多く、会社の方針と対立するため選手獲得においての懸念点になると思う。ただ、社業を通して人間性を高めていくことも一方で必要であると考えているため、社の方針を変えることはない。
- ・ 新リーグの発足に向けて、地元に応援されるチームになっていきたいと考えているが、そのためのファン層の拡大が必要。いかに“ハンドボールをしたことがない人”に振り向いてもらえるかが重要と認識している。
- ・ 他のスポーツと比較しても、ハンドボールは会場の演出・盛り上げも少なく、また情報発信も弱いと感じるため、こうした点を改善していくことでファン層拡大の余地はあると思う。
- ・ ヨーロッパでは試合開始前からファンが会場に集まり、お酒を飲んで盛り上がっている。試合が終わった後も、勝ち負けに関係なく会場で盛り上がっている。こうしたつながりが、日々の生活や仕事に良い影響を与えるとともに、お金が落とされチームも黒字になっていくと思うため、やはり地域で好循環をつくっていくことが必要であると思う。

### 【地域との関わりや社会貢献】

- ・ 新リーグ発足後に、東海市民体育館をホームアリーナとして利用させていただくことになったが、利用させていただく以上、さらに地元貢献していきたいと考えている。アイデアとして、例えば試合の際に地元商店のキッチンカーに来ていただき、賑わいづくりをするなど、少しでも多くの人が集まり、地元にお金落ちるように工夫していきたい。

- ・ 子どもの体力低下に問題意識があり、選手が東海市内の小学校を巡回して、出前で講座を行い、運動の楽しさを伝える取組を行っている。ハンドボールの基本的な動きとなる「走る」「飛ぶ」「投げる」は運動の三大要素と言われており、活動を継続していきたいと感じている。
- ・ クラブチームの部員が減っていることが課題の一つである。試合をする小5、小6の年代が合わせて11人程度と層が薄く、他の種目に流れているのかも知れない。

### 【アジア大会への期待について】

- ・ 大会の開催を通じてスポーツの活性化に繋がっていけば良いと思う。また、当社の選手が出場すれば盛り上がりも変わってくると思うため、大会に向けた選手の育成が必要と感じる。

### 【行政への要望について】

- ・ 次期計画における「スポーツ実施率向上に向けたスポーツ人口の裾野拡大」という課題意識は、当社にも通じるものがあると思う。特効薬はないが、地道な取組を続けていくしかないと思う。
- ・ 特にハンドボールはメジャースポーツではなく、クラブチーム単体で努力してもなかなか難しいものがあると思う。その点、行政とタイアップして取り組んでいけると有難い。できれば「aispo!」などでハンドボールや当社の選手が取り上げていただけると違ってくると思うため、ぜひお願いしたい。スピード感を持って取組を進めて、新リーグを盛り上げて行ければと考えている。

## 団体ヒアリング結果（ウィル大口スポーツクラブ 10月14日実施）

### 【運動部活動の地域移行について】

- ・ 昨年度から、運動部活動の地域移行に向けた試験的な取組を国から受託して実施しており、昨年度は水泳部、バレー部、サッカー部で取組を行った。顧問の競技経験の有無など、それぞれ背景の異なる3つの部活動で、まさに試験的取組というイメージであったが、生徒の評判も良く、先生方の反応も良かったと聞いている。
- ・ 昨年度は、顧問の立ち会いのもと活動していたが、今年度からは当クラブの指導者のみで対応する日をつくることを検討していた。一方で、単独で指導するには部活動指導員であることが必要で、当クラブの指導者は外部指導者という立場となるため、現行のスキームでは指導者単独で指導することはできない。
- ・ この取組では、生徒に自己負担を求めている。プールについても無料で参加できる形となっている。他の地域でも同じことができるかと言えば、そもそも屋内プールがない自治体も多いと思うし、財政上の都合で生徒への支援が難しい自治体もあるのではないかと。
- ・ 地域移行についての最大の課題は、やはり予算であろう。指導者への謝金についても、これまでは時給という形で受け取ってきたが、金銭的なインパクトはないため、今後どうしていくのか、全国的な課題であると思う。
- ・ 体育協会と連携しており、指導者は町の体育協会から派遣される形となっている。こうした背景もあり、普及レベルでは指導者に困っていない。一方、特に水泳やサッカーについては強化を求める選手が多いため、そうなるに経験値やライセンスが必要となる。育成・強化の指導者となれば、数を増やしていく必要がある。
- ・ 地域移行のメリットとしては、受け皿をつくることで競技人口の裾野が広がれば、それだけ競技力向上に向けて深掘りできる余地が大きいことである。クラブに通っていれば、もっとやりたい、うまくなりたいと思う生徒も増えると思うが、そういった生徒を強化に引き込みやすい。部活動で普及し、クラブで育成・強化していくという流れが重要。

### 【総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度について】

- ・ うまく活用したいと考えているが、正直に言えば、登録や認証を受けた後の展開が現時点ではイメージできていない。登録や認証を受けることのメリットについて、より周知していく必要があるのではないかと。

- ・ 登録・認証制度は新しい制度であり、時間が経過すれば全国で色々な事例が出てくると思う。それを参考にしながら、今後の対応を検討していきたいと考えている。

### 【アジア大会への期待について】

- ・ 多くの人々が愛知・名古屋に訪れることや、スポーツ施設の整備が進むことなど、スポーツ振興に向けて必ず好影響があると思う。ただ、オリンピックと同様、開催後の施設の利活用や、開催を活かして何ができるのかといった点が問われるだろう。大会の経験を活かし、将来にわたって何をしていくのか。盛り上げのための色々な仕組みづくりが必要であり、そうした取組が我々の活動の支えとなる。
- ・ 地元の大会となるので、「みる」機会を活かしていくことが重要。選手を目指す生徒は進んで競技会場に行くと思うし、指導者も必ず生徒を連れて見に行くと思う。生徒も指導者も刺激を受け、日々の活動に還元できると思う。
- ・ 大会運営にあたっては、学生の参画をどう引き出すのかがポイント。我々の活動も、イベント運営など学生に支えてもらっていることが多い。スポーツに関心のある学生であれば、支える側に関わりたいと思う学生はたくさんいると思う。

### 【行政への要望について】

- ・ 行政の支えがあり、今のところ自主自立で活動ができているが、活動を継続していくにはやはり、人とお金の確保が必要。また、参加者を増やし、お金を生み出すことは我々の努力となるが、ベースとなる施設を維持していくための支援も必要となる。

### 【今後の取組について】

- ・ 高齢者に対する働きかけが求められていると認識している。医療費の削減が叫ばれていたが、コロナ禍前は、当クラブの高齢者向けの事業に年間延べ6千人が参加しており、ある程度の削減効果があったものと思う。ただ、高齢者に対しては、いかに継続した活動を引き出すかが課題。
- ・ 働く世代への取組も進めていきたい。地元で大企業が多いため、企業と連携した取組を進めたいと考えていた。健康経営の視点からも有用だと思う。